

平成25年8月20日（火）
国土交通省 関東地方整備局
国営昭和記念公園事務所

記者発表資料

国営昭和記念公園こもれびの里 農家エリア全面オープン
～供用式典を8月24日（土）11時30分から行います～

国営昭和記念公園では昭和30年代の武蔵野の農村風景の再現を目指して整備を進めている「こもれびの里」のシンボルとして、東京都狛江市等から移築整備した推定築250年の農家を平成25年4月から暫定公開しています。

このたび、往時の暮らしや文化を再現した展示等が完成し、8月24日（土）に全面オープンするとともに供用式典を執り行いますので、お知らせいたします。

記

式典日時：平成25年8月24日（土） 11時30分～12時30分まで

式典場所：国営昭和記念公園 こもれびの里 農家エリア

※式典では建物をご寄贈いただいた方々への感謝状贈呈、関係者によるテープカットや記念撮影、内覧会を予定しています。

※農家の一般公開は12時40分頃を予定しています。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、東京都庁記者クラブ、立川市政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 国営昭和記念公園事務所

副所長 吉田 武士
調査設計課長 富所 弘充

電話：042-524-1089

FAX：042-526-1466

こもれびの里について

1. こもれびの里

国営昭和記念公園「こもれびの里」は昭和 30 年代の武蔵野の農村風景を再現しています。「昭和・武蔵野・農業」をテーマに、官民協働で、農業や年中行事などの様々な体験を通じて、自然と暮らしの知恵を伝えていくエリアです。



こもれびの里全景写真



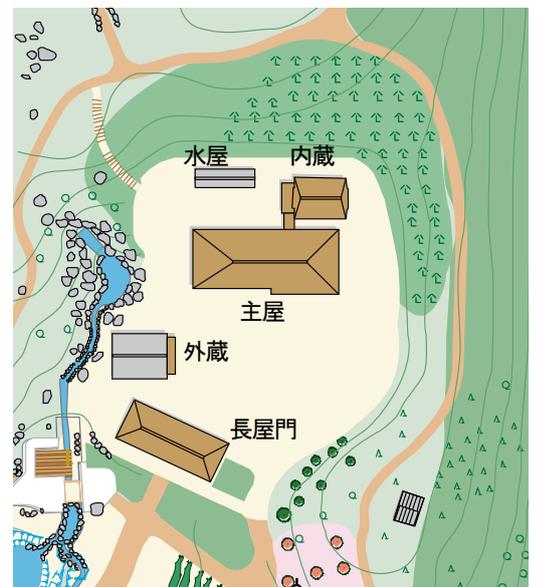
こもれびの里平面図

2. こもれびの里農家エリア

こもれびの里の農家エリアには建物が5棟あり、そのうち主屋（おもや）、長屋門（ながやもん）、内蔵（うちぐら）の3棟が東京都狛江市より移築され立川市指定有形文化財になっています。また、外蔵（そとぐら）は東京都あきる野市より移築されました。



農家エリアの全景写真



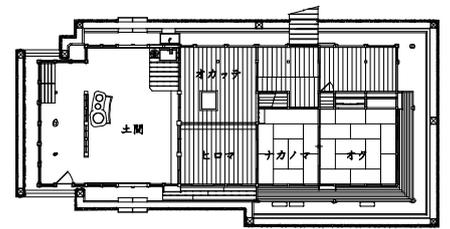
農家エリア平面図

●主屋（おもや）
（旧石井家住宅
立川市指定有形文化財）

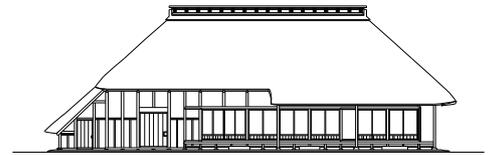
昭和30年代の生活を再現した展示を行います。通常は土間までの立ち入りですが、8月24日は特別公開として部屋内へ上がることができます。



立川市指定有形文化財第17号平成21年7月
構造及び形式
木造平屋建、寄棟造、六間型、茅葺
桁行11.5間（20.91m）、梁間5.5間（10.01m）



平面図



南側立面図

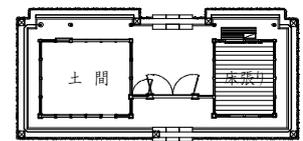
主屋は住宅として建築された建物で、建築年代は、ヒロマとナカノマ境の東柱に打ち付けられていた祈禱札から18世紀後半であると考えられます。
解体調査と発掘調査によって、当初の間取りは土間とヒロマ・ザシキ・ナンドの三室でしたが、その後の改修で六ツ間取りになったことがわかりました。

●長屋門（ながやもん）
（旧石井家住宅
立川市指定有形文化財）

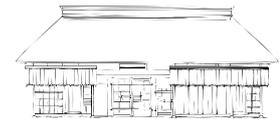
大ノボリの挟み木彫刻や、かつて使用されていた脱穀機などの農機具等の常設展示を行います。



立川市指定有形文化財第17号平成21年7月
構造及び形式
木造平屋建、寄棟造、茅葺
桁行7.5間（14.18m）、梁間2.5間（4.60m）



平面図



北側立面図

門の中央通路には内開きの門扉と脇の潜戸、東側の部屋には村の年貢米を預かる穀蔵、西側の部屋には高札や村の共有物、農具を保管していたと考えられる納戸が付いています。
建築年代は家の歴史や建築の形式から19世紀初頭の建立と推定されます。

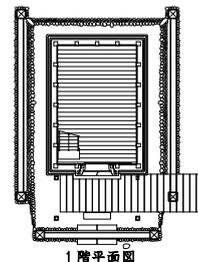
●内蔵（うちぐら）
（旧石井家住宅
立川市指定有形文化財）

嫁入り道具の長持ちや筆筒、着物、土蔵の土壁見本などを保管しています。

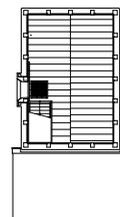
通常は内部の公開はしていませんが、8月24日は特別公開を行います。



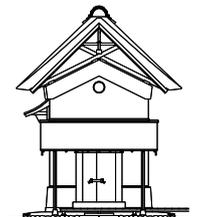
立川市指定有形文化財第17号平成21年7月
構造及び形式
木造2階建、切妻造、茅葺
桁行3間（5.46m）、梁間2間（3.64m）



1階平面図



2階平面図



西側立面図

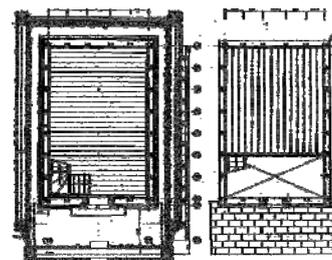
内蔵には祝いの什器や衣類、嫁入りの長持ちや筆筒、名主の記録類などが収められていことから、文庫蔵とも呼ばれています。建物は梁行2間、桁行3間の二階建て茅葺置屋根、妻入。建築年代は、明治時代初期頃と推定されます。

●外蔵（そとぐら）
（旧岡野家住宅）

こもれびの里のあゆみや農事暦のパネル展示のほか、民具などの展示を行います。



構造及び形式
木造2階建、切妻造、瓦葺
桁行3間半（6.36m）、梁行2間半（4.55m）



外蔵には穀物などの収穫物の保管に使用されてきました。建物は、梁行2間半、桁行3間半の二階建て、妻入。建築年代は、明治時代と推定されます。